

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: 水酸化バリウム八水和物

製品番号(SDS NO): D000680-2

供給者情報詳細

供給者: 国産化学株式会社

住所: 東京都中央区日本橋本町3丁目1番3号

担当部署: 品質保証部

電話番号: 045-328-1715

FAX: 045-328-1716

e-mail address: cs@kokusan-chem.co.jp

緊急連絡先: 国産化学株式会社 横浜事業所 神奈川県横浜市西区北幸2-8-29

## 2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性(経口): 区分 4

皮膚腐食性及び刺激性: 区分 1

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 2(全身毒性)

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

重篤な眼の損傷

臓器の障害のおそれ

注意書き

安全対策

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

保護手袋、保護衣又は保護面を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は

外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 口をすすぐこと。  
 飲み込んだ場合:気分が悪いときは医師に連絡すること。  
 飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

貯蔵

施錠して保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別:

化学物質

化学的特定名:水酸化バリウム八水和物

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号	化学式
水酸化バリウム(八水和物)	98.0≧	12230-71-6	1-83	BaH18O10

危険有害成分

毒物及び劇物取締法「劇物」該当成分

水酸化バリウム(八水和物)

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

水酸化バリウム(八水和物)

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

水酸化バリウム(八水和物)

4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

周辺設備に適した消火剤を使用する。

特有の危険有害性

加熱すると容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性、有毒及び/又は腐食性のガスを発生するおそれがある。

消火を行う者への勧告

**特有の消火方法**

関係者以外は安全な場所に退去させる。

**消火を行う者の保護**

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

**6. 漏出時の措置****人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置**

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

**環境に対する注意事項**

上水源、河川、湖沼、海洋、地下水に漏洩しないようにする。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材**

掃き集めて、容器に回収する。

**二次災害の防止策**

漏出物を回収すること。

**7. 取扱い及び保管上の注意****取扱い****技術的対策**

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

**局所排気、全体換気**

排気/換気設備を設ける。

**注意事項**

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

**安全取扱注意事項**

保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染箇所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

**配合禁忌等、安全な保管条件****適切な保管条件**

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

施錠して保管すること。

**8. ばく露防止及び保護措置****管理指標**

管理濃度データなし

**許容濃度**

ACGIH(1990) TWA: 0.5mg/m<sup>3</sup> (眼、皮膚および胃腸刺激、筋肉刺激)

**ばく露防止****設備対策**

適切な換気のある場所で取扱う。

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

**保護具****呼吸用保護具**

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

**手の保護具**

保護手袋を着用する。

**眼の保護具**

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

**衛生対策**

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

取扱い後はよく手を洗う。

**9. 物理的及び化学的性質**

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

**物理的状态**

形状：結晶又は結晶性粉末

色：白色

臭い：無臭

pH：12.5(5%水溶液、20℃)

物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲

初留点/沸点：知見なし

融点/凝固点：78

引火点：知見なし

比重/密度：2.18

**溶解度**

水に対する溶解度：溶ける

**10. 安定性及び反応性****化学的安定性**

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

**避けるべき条件**

混触危険物質との接触

**混触危険物質**

酸

**危険有害な分解生成物**

バリウム酸化物

**11. 有害性情報****毒性学的影響に関する情報****急性毒性****急性毒性(経口)**

[日本公表根拠データ]

水和状態が不明であるが、ラットのLD50が308 mg/kgとの報告(IUCLID(2000))があり、いずれの水和物(一水和物、八水和物、無水)として換算しても区分4の基準値内と考えられるため区分4とした。

**急性毒性(吸入)**

[日本公表根拠データ]

データなし。なお、水酸化バリウム一水和物については、ダストとしてLC50が2.7 mg/L/1h(0.675 mg/L/4h)と報告されている(HSDB(2009))なので、区分3に該当する。

**局所効果****皮膚腐食性・刺激性**

[日本公表根拠データ]

試験物質の水和状態が不明であるが、ラットとウサギに適用した試験で強い刺激性(highly irritatin

g)との結果 (IUCLID(2000))があり、かつ、本物質水溶液はpH13.11(18 g/L) (IUCLID(2000))との情報に基づき、区分1とした。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

試験物質の水和状態が不明であるが、ウサギの角膜に試験物質との接触による顕著な刺激性が認められた (IUCLID(2000))がありこと、かつ、本物質水溶液はpH13.11(18 g/L) (IUCLID(2000))との情報に基づき、区分1とした。

感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

ACGIH-A4(1990) : ヒト発がん性因子として分類できない

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

ラットに試験物質の水和状態が不明であるが経口投与により死亡(LD50: 308 mg/kg)に至る症状として、筋肉の痙攣に続く弛緩、一部の動物では後肢の麻痺と痙攣に次いで、呼吸促進と呼吸深大・低下を交互に伴う全身脱力を示した (IUCLID(2000))。一方、ラットに水酸化バリウム一水和物を吸入ばく露により、一時的な低運動と逃避行動、前肢で眼と鼻を擦ること、眼と鼻からの血液を含む滲出液、前肢と鼻の化学熱傷、下痢、呼吸困難、回復期には嗜眠、前肢、鼻、耳の壊死、後肢の筋協調性欠如による運動失調、自己咬症から死亡(LD50: 0.675 mg/L/4h)に至った (HSDB(2009))。症状の発現はLD50またはLC50から判断して、ガイダンス値範囲は経口では区分2、吸入では区分1に該当するが、判定基準1b3)を満たさないList 2の情報であること、死因は明らかに試験物質の腐食性に因ると述べられている (HSDB(2009))ことから、区分2(全身毒性)とした。

吸引性呼吸器有害性データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性データなし

残留性・分解性データなし

生体蓄積性データなし

土壌中の移動性データなし

オゾン層破壊物質データなし

## 13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行なって危険有害性のレベルを低い状態にする。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は清浄して関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する事。

## 14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

番号 : 1564

品名(国連輸送名) :

バリウム化合物、N.O.S.

国連分類(輸送における危険有害性クラス): 6.1

容器等級: III

指針番号: 154

特別規定番号: 177; 223; 274; A3; A82

#### 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

劇物(令第2条)

水酸化バリウム(八水和物)98%(法令番号 79)

労働安全衛生法

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

水酸化バリウム(八水和物)

名称通知危険/有害物

水酸化バリウム(八水和物)

化学物質管理促進(PRTR)法に該当しない。

消防法

届出を要する消防活動阻害物質

危険物の規制に関する政令別表第2: 劇物(届出数量 200kg)

水酸化バリウム(八水和物)

化審法に該当しない。

船舶安全法

毒物類 毒物 分類6 区分6.1

航空法

毒物類 毒物 分類6 区分6.1

適用法規情報

輸出貿易管理令別表第1の16の項に該当。

#### 16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN

Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1 ECNO6182012)

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2016 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

JIS Z 7252 (2014年)

2015 許容濃度等の勧告(日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データです。